

子供たちのキャリア教育の一端を担う

大手保険会社が今年、小学生を対象として実施した職業ランキング「大人になったらなりたいもの」アンケートによると、男子の上位は「会社員」、「ユーチューバー」、「野球選手」、「サッカー選手」、「ゲームクリエイター」、女子の上位は「パティシエ」、「会社員」、「漫画家・イラストレーター」、「医師・看護師」、「歌手・アイドル」でした。安定志向の一方、メディアで目にするあこがれの職業も多く挙げられています。

6月末、鶴岡西ロータリークラブでは、職業奉仕の実践の一つとして、未来を担う小学生がさまざまな仕事を通じて社会や地域を知り、活気に満ち溢れた市内の未来を描いてほしいという趣旨で、「まちなかおしごと体験」のイベントを鶴岡市内のエスマールにて実施しました。

「大工さん」、「スタイリスト」、「フォトグラファー」、「ユーチューバー」、「パティシエ」の5つの中から希望する職種を事前に選んでもらう方式で、午前と午後合わせて約140名の小学生が参加しました。指導はロータリークラブ会員を中心に地元企業や個人経営者などが担当し、参加した子供たちは、木箱作り、マネキンの髪へのヘアアイロンの当て方や編み込み方、写真の撮り方やパソコンでの画像処理の仕方、エスマールの案内映像や自己紹介映像の作り方、クレープづくりなど、各自試行錯誤しながらも熱心に楽しみながら挑んでいました。

職業の選択において、日本では大学生くらいまで希望を持ち続けることができますが、ドイツでは10歳で将来を選択しなければなりません。ドイツの小学校は1～4年生までの4年間であり、その卒業時点の10歳で、将来大学へ進学する子、専門学校や職業学校で学ぶ子、職人を目指して就業に必要な知識を学ぶ子の進路に分かれます。この選択は、保護者や教師がその子の学力や才能や資質を確かめ、それに沿った形で将来を決定づけているのです。そして、この10歳の選択については、「早い段階から将来に向けて準備ができる利点がある」という意見が大勢を占めており、その背景には職人の「マイスター制度」への高い評価が受け継がれているのです。

「生まれ持った才能を重視」するドイツの教育に対して、日本の教育では子供たちの成長段階に合わせたキャリア教育が行われています。その教育の一端を地域社会においてロータリークラブが担うことには大きな意義があると思います。今回のイベントに参加した子供たちのほとんどは、「仕事とは何か」、「職業の大切さや素晴らしさ、あるいは難しさ」などを体験するとともに、大きな達成感と喜びを味わいました。

子供たち一人ひとりの勤労観、職業観そして人生観を確立させるためにも、今後も、「まちなかおしごと体験」を我がロータリークラブの職業奉仕事業の中核と位置付けて継続していきたいと思っています。